



駅前さとるブレストクリニック

院長 田中 覚

(たなか さとる)



- 医学博士
- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本乳癌学会専門医・指導医・評議員
- 検診マンモグラフィ読影医
- 乳がん超音波検診実施資格
- 緩和ケア研修会終了

どなたでも気軽にかかれる乳腺外来！

なんでも相談できるファミリードクターを目指します！

『さとる先生！！』と、いつでも気軽にお呼びください。

～ 乳がんの予防・早期発見のお話 ～

田中 覚 先生の講演 (2017. 5. 27 講演会抜粋)



(1) 乳がんの頻度

乳がんは増加傾向にあります。しかも女性の悪性腫瘍では第一位です。

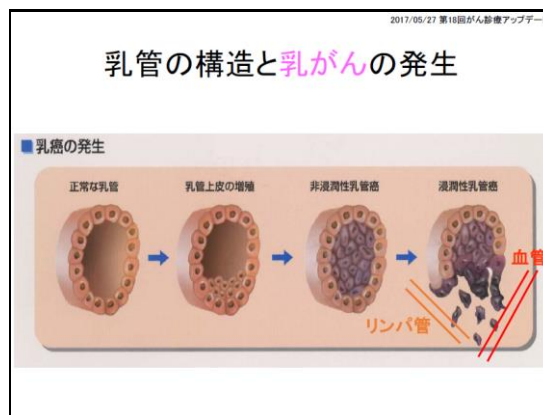
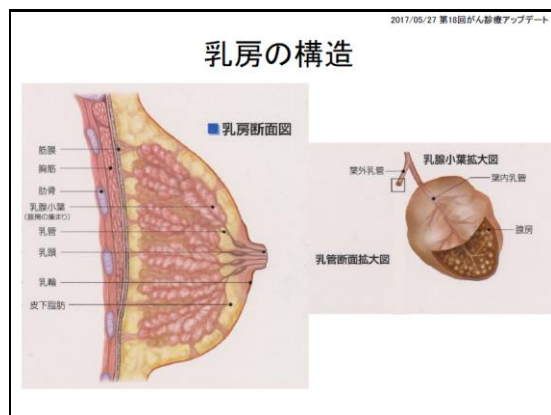
約20年前は国内で約3万人だったのが、2015年には約9万人ということで、日本人女性の11人に1人が乳がんになるといわれています。欧米は7,8人に1人で日本人よりも頻度は高いですが、日本人女性も欧米の数字に近づいてきている現状にあります。乳がんは今や、決して珍しい病気ではないのです。さらに年齢層も欧米化しつつあります。もともとの日本人乳がんの特徴は40代の方にピークがありましたが、最近では60代の方にピークが来て、今後も増えていくだろうと思われまます。

高槻市の人口が35万人、ということは1年間約280人の方に、新たに乳がんが見つかるということです。同窓会に行くと、乳がんになった知り合いが一人や二人はいるという現状だということです。

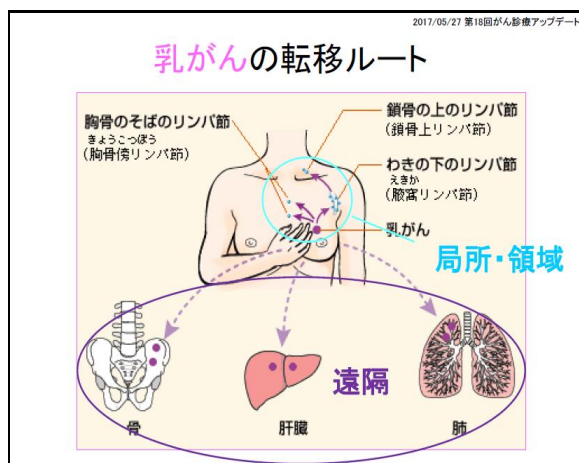
(ちなみに乳腺専門医といわれるのは、日本にたった1500人しかいないといわれています。)

(2) 乳がんの進み方・症状

まず乳房の構造は、乳頭に太い乳管が10～15本束ねられており、そのひとつに葡萄のひと房のような形で乳腺の腺葉というものがあります。腺葉の中の一粒子一粒に乳腺の小葉があります。小葉の中で乳汁が作られて、乳管を通り乳汁が出てくるという仕組みになっています。乳がんの多くは、この乳管の中にできるという風に考えられています。



発生は、正常な細胞が一行に並んでいるところに徐々に細胞が増殖してきて、乳管の中をがんが占めるということになります。それが年月を経過していくと、がん細胞が乳管を突き破って外に出て行く（浸潤する）のです。乳管を突き破ると、そこには血管やリンパ管があり、そこにがん細胞が流れていくと、全身に転移していく可能性があります。そのようなものが浸潤性の乳がんといわれます。転移の経緯は、がん細胞が発生して増殖すると乳房の中で大きくなったり、リンパの流れを通して脇の下（腋窩リンパ節）や、鎖骨周囲のリンパ節に転移していきます。あるいは血液の流れに乗って、肺や肝臓や骨というところに転移していくということもあります。なぜ乳がんが怖いのかというと、直接隣へ広がり、リンパ管を通してリンパ節に転移したり、血液の流れを通して全身（肺や肝臓や骨や脳）に転移することによって、命を左右する状態になるからです。



では、どういう自覚症状があるのでしょうか…。

やはり一番多いのが、しこりを感じる. その次に乳頭から出血がある. ということです。時々、乳房の皮膚が窪んできたり、乳頭が引き攣れたりといったことも症状として出てくることがあります。ごくまれに、痛みを伴うことで乳がんが見つかることもあります。

透明や黄色っぽい乳汁、ミルクのような乳汁が出てくるがありますが、乳がんとは関連が低いといわれていますので、様子を観て頂くということでいいかと思えます。

一方、明らかに血液が混ざっていると、乳がんの可能性があるので必ず受診してください。また、乳房パジェット病というものもあり、乳房や乳頭が湿疹のようにただれる特殊な乳がんもあります。あるいは炎症性乳がんというものもあり、明らかにしこりというものはないのですが、乳房の皮膚に発赤・熱感が発生してそれが急激に拡がるという、治療を急がないといけない乳がんもあります。



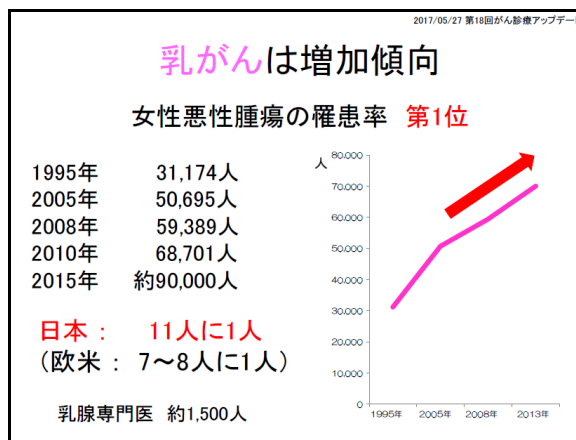
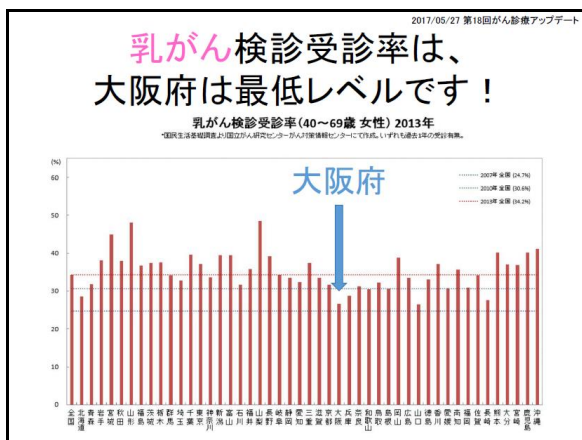
ちなみにマンモグラフィの検診というのは、自覚症状のない乳がんを見つける、いわゆる早期発見という目的で行われています。

そこで、症状のない方も乳がん検診を受けてくださいということになります。

(3) 乳がん検診

先程も申しましたとおり、乳がんは女性の悪性腫瘍では第一位ですが、治療の進歩があり、死亡では第五位ということです。最近では関心も高まってきていることもあり、検診によって発見されることから早期の乳がんの割合が高くなってきています。ですが、乳がん検診の受診率を国際比較で見ると、アメリカの受診率は8割ですが、日本は4割ということでまだまだ低いです。

しかも国内では、大阪府が一番低いのです！



※乳がんに関しては、予防というのは中々難しいです。

早期発見が一番重要です！！

皆さん、乳がん検診を心がけましょう！！

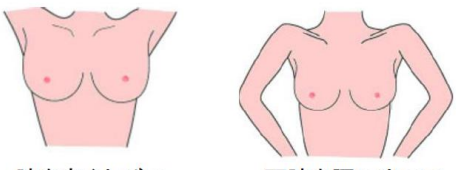
☆さとる先生からのワンポイントアドバイス

マンモグラフィがなくてもご自身で見つけることも出来ます。1ヶ月に1回で構いませんので、鏡の前でしこりや引き攣れ、乳頭の凹みや乳頭の変化、湿疹などがいないかをチェックしていただけたらと思います。そして4本の指の腹での字を書くように動かして、しこりや堅いところがあるかを乳房だけでなく腋の下などを手で触る、そして乳頭を絞るようにして血液が混じるような分泌物がいないかのチェックもしてください。

2017/05/27 第18回がん診療アップデート

セルフチェックの方法

①目で見えるチェック(鏡の前で)



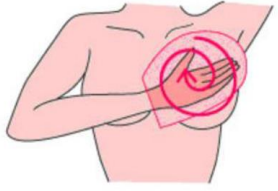
腕を高く上げて 両腕を腰に当てて

- ・しこり、ひきつれ、くぼみはない？
- ・乳頭のへこみ、乳輪の変化(湿疹)はない？

2017/05/27 第18回がん診療アップデート

②手で触るチェック(浴室で)

* 石鹸がついた手で触れると凹凸が分かりやすいです。



4本の指の腹で「の」の字を描くように動かす。しこりや硬いこぶがないか？わきの下までチェックします。

乳房や乳頭をしぼるようにして、乳頭からの分泌がないか調べます。

☆さとる先生からのメッセージ

乳がんは比較的、治りやすいがんです。ですが、早期発見に勝る物はありません。ですので、症状があれば乳腺専門医に相談してください。症状がなくても検診を受けるようにしてください。精密検査が必要とされた、もしくは他の病院で疑いがあると判断されたなど…

乳房に関することは何でも結構です。いつでもご相談頂ければと思います。

☆スタッフからのひと言

院長のさとる先生は、知識や経験がとても豊富で、気さくで親しみやすい先生ですよ(^o^♪
また、当院には乳腺科の経験豊富な看護師もいます。乳腺はデリケートな部分ですので、相談しづらい時は、いつでもスタッフにお声がけくださいね！

皆さんの不安を少しでも解消でき、心身の健康を保ってもらえるように努めてまいります。

駅前さとるブレストクリニック

院長 田中 覚

(スタッフ一同)